

コラム 相模原サポステ見学記

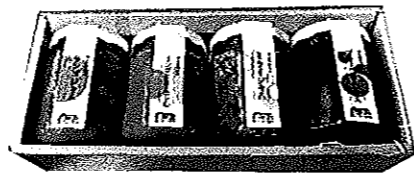
今回の見学の主な内容としては、相模原若者サポートステーション内のメンバーで結成された The high-touches の旅の様子の放映と、居場所スペース「ホット」の見学でした。

はいたち一歩の皆さんは、利用者3名とスタッフ2名の5名チーム。旅は利用者の皆さんの「殻をやぶりたい」という思いから始まったようでした。旅の内容は至ってシンプルで、100キロ歩いて、旅の間に100人の人とハイタッチをするというもので、旅のための準備

(資金の調達、宿の手配、行程の組み立てなど)をすべて自分たちで行うというのがルールです。

彼らは、この旅でそれまでの人生でやってこなかったことへのチャレンジをいくつもしています。その感想として「やってみたら意外とできた」という言葉を残しています。それはこの旅で今まで自分も知らなかったような自分のたくさんの可能性について目を向けることができたという結果だと思いました。

次に見てきた居場所スペース「ホット」は若者の居場所スペース



あると同時に厨房ではジャムの加工を行うことが出来るようになっており、この居場所とモノづくりの場が共存した空間づくりは、居場所スペースを利用する若者が就労やモノづくりに興味を持つきっかけづくりができるような工夫があると感じました。今回の研修は、チャレンジや可能性、発見、思い出など、今後チーム居場所の活動に生かしたいキーワードがたくさん得られた研修になったと思います。

これからの活動予定

●ピアサポートネット事業の予定

びあさぽ⇒一歩踏み出したい人、仲間と活動したい人の若者のプログラム!

びあさぽ 会津! 5月28日~7月23日まで(全8回)

登録会も随時開催します

びあさぽ 県南! 5月29日~7月18日まで(全8回)

詳細スケジュールはこちら→<http://piasapo.beans-fukushima.or.jp/>
担当者(080-4184-9438)までお気軽にお問い合わせください。

●親の会⇒不登校のお子さんを持つ保護者の方の会です

5月24日(土)13:30~15:30 フリースクールにて

●家族の集い⇒仕事についていない若者、ひきこもりの若者のご家族の方の会です

6月21日(土)13:30~15:30 矢剣町会館にて

新

人

紹

介

2月よりスタッフになりました。まだまだ学ぶことが多い毎日ですが、事業の活動を発信していけるように頑張りたいです。
被災子ども支援部門(福島)
石川あさみ

5月からお世話になります。1日も早くできるようがんばりますので、よろしくお祈りします。
被災子ども支援部門(福島)
渡部裕子

休みの日は本ばかり読んでいますがアウトドア派でもあります。はんごう炊飯はお任せを、よろしくお祈りします。
ピアサポートネット
石塚千夏

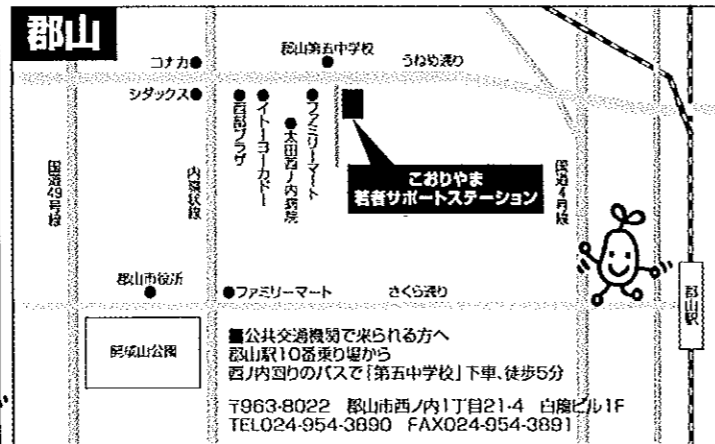
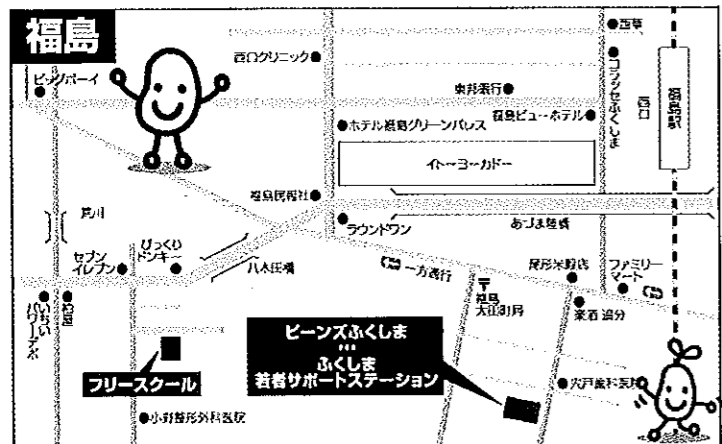
被災子ども支援県北事務所移転のお知らせ

「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト(県北)」
「東日本大震災中央子ども支援センター福島窓口」の事務所が移転しました。

〒960-8063 福島市太田町17-8 アーバン横山1 1階
電話番号は変わりません
電話 024-573-0150 FAX024-573-0151

「県内の0歳児が過去10年間の統計で初めて増加~昨年同期に比べ854人増~」と福島県から発表されました。全国で33年連続減少している子どもの数、そうしたなかのかすかな光...この光を大事に育てていく環境を、私たち大人がしっかり整えていかなければ、と思った記事でした。また、一方では「子どもの6人に1人が貧困」という現在の社会...私たち一人一人ができること、私たちが繋がってできることを考えていきたいですね。

編集後記



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

ビーンズ通信 Vol.63

●発行日/2014年5月10日

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

新たな年度を迎えて

芽生えの季節に。

山々の色合いが日々変化を見せるこの季節、自然の生命力を強く感じます。木々は冬の間内側にエネルギーをため込みながら、その厳しい自然の中において、芽生えの季節を迎えると、そのエネルギーを使って劇的な変化をしていきます。

子どもたち若者たちが持っている

内側のエネルギーを、自分らしい芽生えにつないでいけるよう、私たちができることを考え、実現していきたいと思います。

ビーンズふくしまは15年前、福島の地でフリースクールを始めました。ひとりひとりの子どもたちが自分ら

しい芽を空に向かって伸ばしてほしいという願いを込めて。その想いを大事にしながら、今年度もそれぞれの事業に取り組んでいきますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



NPO法人
ビーンズふくしま
理事長
若月 ちよ

「平成26年度 事業はじめの会」が開催されました。

突然ですが、ビーンズふくしまの一年の事業初めの流れを少しご説明します。

4月に事業年度が始まり6月にNPO法人総会があります。この時期に事業ごとに前年度の事業評価を行い、評価に基づいて新年度の事業計画をたてます。当然ですが、私たちは事業を行う事が目的ではなく社会課題を解決する事が目的ですから、「どの程度解決されたか?」「解決の過程で、どんな課題が明らかになったのか?」が一番気になる所です。

本年度より4月に全事業・スタッフが集まる「事業年度はじめ会」を開催する事になりました。内容は理事長から団体の目指す方向、私達が取り組む課題は「子ども・若者の社会的孤立問題」との話が職員にされ、また9つの事業から平成25年度の事業の成果報告がされました。どこに向かおうとしていて、どの程度進んでいるのか共有する試みです。試みの先には、新年度、職員が前年度の活動評価を踏まえて新たに同じ方向を向いて活動し、よりよく社会課題

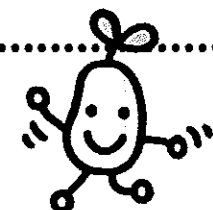


を解決するチームになる願いがあります。もちろん完成されたチームではありませんが、チームとして、「目的」と「コミュニケーション」と「チームワーク」を大切にしながら新年度も事業を開始してまいります。この事業はじめの会の先に解決がある事を願って。

第12回 定期総会のお知らせ

今年もまた定期総会の季節を迎えました。ビーンズふくしまのそれぞれの事業がどのような取り組みをしてきたのか、これから子どもたち若者たちがどんな活動をしていくのか、ビーンズふくしまが創りたい社会を語りながら、皆様にお伝えする会にしたいと思っております。お忙しいところとは存じますが、ご出席のほどよろしくお願いいたします。

●日時
平成26年6月8日(日)
午後1時30分~4時30分(午後1時 受付開始)
●場所
福島市男女共同参画センター ウィズ・もともち
4階大会議室(福島市本町2番6号)



「福島県ひきこもり支援センター」はじまりました。

「ひきこもり」って?

「ひきこもり」とは、さまざまな理由から登校、通勤など社会との交流がなく、長い間自宅からほとんど出ない「状態」のことをさします。広い意味で捉えると、外出はしていても対人関係がない(趣味の用事、買い物での外出など)場合も「ひきこもり」に含まれます。

県内に4万人!?

「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)2010年、内閣府」によると、全国で推計69.6万人が「ひきこもり」状態にあるという調査結果が出ています。これを福

県に当てはめると約8,900人となるのですが、実際にはどのくらいの人数が居るのかまだわかっていないのが現状です。参考として秋田県藤里町の例を挙げると、15~55歳までの人口1,293人に対してひきこもり113人、これを福島県に当てはめると約4万3千人となり、同年代の100人中9人がひきこもっているということになるのです(?!)。学校で言えば1クラスに3~4人いる計算になりますね。

まずはご相談ください!

そんな社会状況の中、福島県から委託を受け「福島県ひきこもり支援センター」を4月より運営することに



なりました。ひきこもっているご本人・ご家族の状況に合わせて、相談や情報提供を行い、地域の保健・医療・教育・労働・福祉機関などと協力しながら、「ひきこもっている状態」から抜け出すためのサポートをしてまいります。

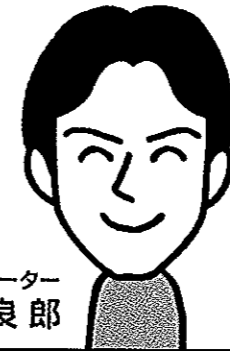
「ひきこもり」のことで困ったら、まずは「福島県ひきこもり支援センター」にご相談ください。

「地域」で解決される社会を目指して

100人に9人が「ひきこもり」状態になり得る。今の日本はそういう社会システムになっているわけです。

今回の事業を通して、学校、会社、友人関係、その他たくさんある社会システムの隙間にこぼれてしまう人たちができるだけ少なくなるように、そしてこぼれてしまった後にすぐ戻ることができるように、「地域」性を活かした仕組みが創れたら良いと考えています。誰かがひきこもっていたら、隣近所のおじさん、お婆さん、お兄さん、お姉さんが助け舟を出せる、そんな「地域」社会が創れたら良いかと妄想しています。

「自身のレベルアップ×地域の人々×必要な社会保障制度=ひきこもらなくて良い社会」を目指し、今年一年、県内各地を飛び回ってまいります!



主任ひきこもり支援コーディネーター
七海良郎

気軽に相談していただける窓口。

「ひきこもり」は、現在、大きな社会問題となっています。ご本人が最も困っているのですが、なかなか支援を求めることが出来ません。ご家族も困惑しています。「まさか、うちの子に限って…」「どうしたらいいのかわからない…」とついそのままにしてしまうということが起こりがちです。社会生活から隔絶してしまうと自分の力で再度社会とコンタクトをつけることは非常に難しくなります。「もしかしたら…」と思ったら、気軽に相談できる窓口としてぜひ利用していただきたいと思います。また、「ひきこもり支援センターって、何をしてくれるの?」という皆様の声に真摯にこたえられるよう、ご本人ご家族と一緒に考えながら必要な情報や機関と繋がっていきたくて考えています。そうした活動を丁寧にしていくことが、今後の「ひきこもり支援」に役立つと信じています。よろしくお願いたします。



ひきこもり支援コーディネーター
千葉桂子

- 所在地: 福島市黒岩字田部屋 53-5(福島県青少年会館1階)
- 相談電話・FAX: 024-546-0006
- HP: <http://fhc.beans-fukushima.or.jp>
- メール: soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

- 開所: 火曜日~土曜日 9:30~17:30
- 休所: 月曜日、日・祝祭日、年末年始ほか
- 対象: 福島県内の、ひきこもりご本人やそのご家族
- 相談料: 無料(事前予約が必要です)

みちのく復興事業シンポジウム報告

子ども・若者が自分らしく生きていける社会の実現のために

3月14日、東京の電通ホールで行われた「みちのく復興事業シンポジウム」に登壇しました。組織力向上のため、昨年度より「みちのく創発キャンプ」へ参加してきましたが、その代表として約300名の企業・行政関係者に対して実施報告を行いました。

創発キャンプにおいては、企業人の持っている経験やノウハウをお借りし、これまでになかった視点から団体の方針を見直すことができました。こういった企業と被災地復興の活動は、益々重要になってくると思います。今後も、新しい価値を生み出す1つのパートナーとして企業と協働しながら、「子ども・若者が自分らしく生きていける社会」の実現を加速させていきます。



トヨタパナソニック報告会

仮設住宅での子ども支援「成果」の社会発信を~うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト~

4月22日、2011年度より助成をいただいたトヨタ財団・パナソニック教育財団への、総括報告を岩手・宮城県で活動をしている3団体と行ってきました。

地域性や被災状況は違っても、各報告から見えてきたことは、不登校や虐待等の相談が持ち込まれる等、子どもの居場所とそれを支える地域の必要性という日本社会の課題が、震災を機に顕在化してきたということでした。

だからこそ社会全体への発信が大事になってくるという認識を、各団体と財団双方が持つ機会となりました。

これまでの「成果」や「課題」に対しての問題提起はさらに積極的に社会に発信していきます。そして、まだ継続が必要な仮設住宅の子ども支援につなげて参りたいと思います。



フリースクール

笑いと涙の卒業と成長を祝う会

フリースクールビーンズふくしまの1年を締めくくる大きな行事、「卒業と成長を祝う会」が3月に行われました。今回はフリースクールを卒業する生徒も多く、退職するスタッフもいたため、丁寧に行事を創りあげ、今のメンバーでそろそろできるその時間を大切に過ごしました。今回の卒業と成長を祝う会は、「誰でも途中からでも入りやすく、ビーンズらしい会にしたい」というテーマで作っていきましました。そんな気持ちの共有もあって、当日の会場は、いつものフリースクールらしい、笑いと優しさで包まれていました。子どもたちの成長をスタッフが記した、卒業証書や歩み賞が手渡され、1年間の自分を振り返っての言葉が、子どもたちから述べ

られました。自分の成長の実感を紡いで述べられた言葉1つ1つに、子どもたちの歩みを感じ、会場は温かい雰囲気になりました。式典後、子どもたちと作ってきた、1年を振り返るムービーも上映され、様々な活動を行った昨年度のことを思い出し、思い出話にも花を咲かせていました。1年を振り返ると、みんな確実に成長しています。その場に立ち合わせてくれて本当にありがとう。

新しい年度になり、それぞれの場所で新しい活動が始まっていると思います。25年度の思い出を大切にしながら、新たな思い出をまた作っていきましょう。また、当日会場に足を運んでいただいた保護者、ボランティア、スタッフの皆様、行事協力金や



差し入れをお持ちいただいた皆様、1年を通して一緒に子どもたちの成長を見守っていただいた皆様、本当にありがとうございました。この場を借りて、心から感謝いたします。